

## 会派活動報告書

令和 6 年 4 月 22 日

岡谷市議会議長

今井 康善 殿

会派名 おかや未来研究室

代表者名 吉田 浩

令和 5 年度における岡谷市議会 会派「おかや未来研究室」の活動について、下記のとおり報告いたします。

活動項目	活動内容及び活動の実績と効果
調査研究	<p>○活動内容</p> <p>8月7日～9日</p> <p>会派視察</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・宇都宮市役所「宇都宮ブランド戦略」</li><li>・佐野市役所「佐野ラーメンプロジェクト」</li><li>・行田市役所「地域防火力強化の取組みと防災士養成講座」</li><li>・千葉大学、植物工場研究会「人口光型植物工場と太陽光型植物工場の見学」</li><li>・柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）「柏の葉スマートシティの見学」</li></ul> <p>2月26日</p> <p>会派現地視察</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・つくえラボ（富士見町）</li></ul> <p>地域協働で「地域の元気を生み出す居場所づくり」の実現に向けて活動している合同会社つくえラボの視察</p> <p>○活動の実績と効果</p> <p>①宇都宮ブランド戦略</p> <p>宇都宮ブランド戦略指針の策定（平成 21 年 3 月）、推進体制、戦略に基づく取り組みと成果。ジャズのまちに 取り組む団体とまちづくり事業、今後の事業展開。感想として岡谷ブランドの取り組みを推進するための、市民とともに作るブランド戦略の策定や目標、予算確保等について大変参考になった。取り組みの成果として、「共働き子育てしやすい街ランキング」（日本経済新聞社）「住みよさランキング」（東洋経済新聞社）など各民間調査結果を公表しているが、岡谷ブランドの取り組みの成果が見えない中で、こうした調査公表もエビデンスとして必要と感じた。</p> <p>②佐野ラーメンプロジェクト</p>

佐野市の佐野らーめんは、喜多方ラーメンと共に有名であり、市内には多くの佐野らーめん店（181店）があるが、高齢化による廃業や東京まで約70kmという立地から人口流出等でらーめん店が減少している。

「佐野らーめん予備校」は、佐野らーめんを活用して、移住・定住の促進、空き店舗の活用、地域の活性化を目指した取組みを行なっている。

感想として、「佐野らーめん」という地域資源を活用して、移住・定住に向けた取組みは、岡谷市においても参考になった。岡谷市にはシルクやウナギといった地域資源があるが、其々個別の取組みに留まっており、「岡谷ブランド」として、一体的な戦略的・戦術的な枠組みによる取組みが充分にされているとは言えず、それが出来る仕組づくりの必要性を痛感した。

### ③行田市の防災についての取組

地域の防災リーダーとして「防災士」を養成し、地域防災力向上をはかることを目的とし、181の自治会のうち180ある自主防災組織の活性化をはかり、さらなる地域防災力の向上を図るため、令和4年度から「行田市防災士養成講座」及び「防災士試験」を実施。感想として、災害に強いまちづくりのために、ひとづくりすなわち地域の防災リーダーの輩出、育成が不可欠と考える。そのための防災士資格取得の助成であり、今回視察した行田市では単なる助成ではなく、自前の養成講座を開催し、地域から推薦された市民に資格取得を通して、地域防災リーダーになって貰いたいとの強い意気込みを感じられた。災害に強いまちを目指す岡谷市も、自主防災組織の現状と消防団との連携を考慮しつつ、防災士資格取得の助成により地域防災力向上を図るべきと考える。

### ④千葉大学の植物工場

千葉大学の柏の葉キャンパス内に設置された「植物工場」の実証実験施設を訪問。運営主体は、産官学一体で設立されたNPO（特定非営利活動）法人の「植物工場研究会」。感想として「農業の工業化」は、生産技術の自動化（耕運機の自動運転、生産・出荷・包装システムの機械化など）を含めて新産業振興の大きなテーマ。その手掛かりを求めての視察であり、さまざまなヒントを得ることができた。ただ、現状では理想と現実のギャップがあまりにも大きく、特に経営面でのハードルが高いことが大きなネックだと感じた。

### ⑤柏の葉アーバンデザインセンター

千葉県柏市の「柏の葉スマートシティ構想」の中核施設である「ゲートスクエア」（首都圏新都市鉄道つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス駅周辺施設）内にある「柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）」を訪問。同センター主催の周辺施設案内ツアーに参加して説明を受けた。感想として、岡谷市は適度の人口と土地面積を有する「コンパクトシティ」であり、「司令塔」次第では大変身できる基礎条件とポテンシャルを備えている。公民学連携と

	<p>共創を推進する新たな組織が必要だと感じた</p> <p><b>⑥つくえラボ現地視察</b></p> <p>地域の元気を生み出す居場所づくりを地域協働で取り組んでいます。富士見町に暮らす人、訪れる人が元気になる、社会参加・交流機会の創出を目的に2021年3月31日に設立。(1)居場所づくり(地域福祉・介護予防)(2)おつきそい人(地域福祉・外出支援)(3)畑作部・稻作部(地域福祉×農業×観光)(4)じゅんかん育ちプロジェクト(地域福祉×農業×観光×環境)の事業を開。主役は地域の皆さんで、地域とともに成長する会社を目指していると伺った。</p>
研修	<p>○活動内容</p> <p>7月31日～8月1日</p> <p>JIAM市町村議会議員特別セミナー(大津研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「脱炭素専攻地域「真庭」の挑戦」～地域資源を生かした真庭市の戦略～ 講師・岡山県真庭市 市長 太田昇氏</li> <li>・「未来の年表」～人口減少日本で地方に起きること、すべきこと～ 講師・「未来の年表」著者 河合雅司氏</li> <li>・「Z世代とこれからのまちづくり」 講師・芝浦工業大学 教授 原田曜平氏</li> <li>・「その地域づくり、古くない？」～全国280以上の自治体と共に創してきた、地域づくりの秘訣～ 講師・株式会社あわえ 代表取締役 吉田基晴氏</li> </ul> <p>○活動の実績と効果</p> <p>①脱炭素専攻地域「真庭」の挑戦</p> <p>真庭市は岡山県の北部に位置し、面積が約828km<sup>2</sup>、人口は約4.3万人、市域の約8割が森林と、決して恵まれたとは言えない条件の中で、地域とは本来どうあるべきかと考え、利用されていないものや捨てられていたものに着目し、資源として活用されていた。岡谷市にも生かされていない資源があるので、私たちもビジョンを描き50年・100年後も支持され選ばれるような「まちづくり」を行なわなければと考える。</p> <p>②未来の年表</p> <p>人口減少社会で自治体に求められていること 自治体の枠を超える視点→民間業者撤退を防ぐ 多極集住→人口の集約。都市の拡散防止 企業→地域自立型、海外進出できる企業、地域で完結 若い女性の流出防止→女性向けの雇用を創出する。</p> <p>③これからのまちづくり</p> <p>東京で一旗挙げようと頑張ったものの泣かず飛ばず、社員を集めるのにもま</p>

	<p>まならなかつた吉田氏が、出身地の徳島県美波町に本社を移転、自身や社員の働き方も変わり、仕事も余暇も充実、地域活動にも関わりが深くなつていった。そうした中から、地域課題をビジネスで解決したいと考え、「パブリックベンチャー」の株式会社あわえを設立し、280以上もの自治体と共に創してきた吉田氏が地域づくりの秘訣をレクチャー。(1)「衣食住」が近接する地方の利点を生かした「半X半IT」という働き方を提唱し、過疎地にも関わらず社員数が3倍に。お祭りへの参加、休耕田での稲作、住民へのIT利活用講座、中学校への出前授業、職場体験、自治防災への参加などで「村が元気になつた」と喜ばれた。役割、やれることの多さが田舎の長所である発見する。(2)少子化対策をながら縮小を前提にした社会づくり、その縮小を緩やかにするために地域格差を極小化させている政策に気づく。では持続可能な地域・社会とは何か。地域での役割の交代、世代交代という循環があることだと考える。しかし持続可能であるためには新たな挑戦が必要だが、若者が減った地方ではチャレンジが絶滅寸前。そのためには、一人の若者が複数・同時選択が可能な社会をつくること。日本は「都会か田舎か」「キャリアか結婚か」など二者拓一を求められすぎる。(3)株式会社あわえを設立し、「都市集中しているベンチャー企業のエネルギーを地方でも」をコンセプトにサテライトオフィスを誘致、技術とベンチャーマインドを持つ人財を誘致した。(4)「IOT&amp;通信技術×スポーツイベント」「IOT&amp;通信技術×災害対策」「IOT&amp;通信技術×備長炭製造」「東京の調理技術×地域食材」など事例紹介。サテライトオフィスを誘致は実は、チャレンジの誘致になった。そしてコロナ禍をへて、仕事が場所に紐づく時代ではなくなり、家族も2地域移住、子どももも2地域修学へ。(5)「関係人口の質=地域関与度、関係期間の長さ」一人が複数の役割を担うことを目指した起業、創業、事業継承支援へ。(6)二者拓一ではない生き方を増やしたら、3大都市圏から地域への人口流入超過という数的な変化が現れた。(7)サテライトオフィスの誘致は人口減少対策、職場誘致につながり、次の新たな展開を期待される=チャレンジがチャレンジを誘発する。</p>
広 報	<p>○活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 10月 会派「おかや未来研究室」の活動広報紙（A3）の作成・配布 11/15 新聞折込にて広報紙を配布</li> <li>② 通年 会派ホームページとFacebookによる活動の発信と報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ：<a href="http://okalab.info/">http://okalab.info/</a></li> <li>・Facebook：<a href="https://www.facebook.com/okayamirai.lab/">https://www.facebook.com/okayamirai.lab/</a></li> </ul> </li> </ul> <p>○活動の実績と効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①会派活動広報紙は計20,000枚を作成。新聞折込を含め市民に配布した。</li> <li>②会派おかや未来研究室のFacebookでは現在（令和6年4月15日時点）、フォロワーが607名いる。また、会派のホームページやFacebook及び会派メンバーの各自のFacebook等のSNSで活動報告等の情報発信を隨時行った。</li> </ul>

広 聴	<p>○活動内容 10/9 中貝宗治 前豊岡市長 講演会（イルフプラザ カルチャーセンター） 「私が変われば街は変わる！今がその時」</p> <p>○活動の実績と効果 中貝さんは人口規模は小さくても、世界の人々から尊敬され、尊重されるまちを目指し、「小さな世界都市 - Local &amp; Global City～」というキャッチフレーズを実現するためのエンジン（政策）として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①環境とし「豊岡エコバレー」創造</li> <li>②受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継ぐ</li> <li>③「深さをもった演劇のまち」の創造</li> <li>④「シェンダーギャップ」の解消</li> </ul> <p>を掲げて市政を展開。中貝さんの姿勢には、シャープな分析とそれに基づいた課題設定・解決のための戦略があり、それを進めるための市民や市役所職員の対話し続ける力と決断力の必要性が穏やかなお話をりからも強く伝わってきた。実際に成し遂げてきたお話はそれだけでも説得力がある。また時には岡谷市のデータなども交えており、参加者にその内容は深く届いたものと考える。</p>
要請・陳情	<p>○活動内容 12/13 市へ「令和6年度 岡谷市の予算編成に関する要望書」提出</p> <p>○活動の実績と効果 市長へ「令和6年度 岡谷市の予算編成に関する要望書」提出 令和6年度予算編成にあたり、これまでの本市の各事業の取り組みの進捗を検証し、また、日頃、市民から寄せられている要望事項に加えて、将来を見据えた本市の政策課題解決に向けて調査・研究、議論を重ねて積み上げたものを要約して、8分野114事項を要望書にまとめて提出了。 また、2月12日付けの市民新聞に予算編成への要望書のダイジェストを広告掲載した。</p>
その他	<p>○活動内容  <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/12 会派総会</li> <li>・会派定例会 計22回開催（原則金曜日）</li> </ul> <p>※市民や市民団体との交流を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案勉強会4回、理事者との懇談会4回</li> </ul> <p>○活動の実績と効果 改選を経て新年度となり新たなメンバーでスタート。会派の理念を『活力ある明日の岡谷をデザインするため、団結して行動し、議会の機能充実と議員の資質の向上を図ると共に、市民に信頼される政治活動に取り組む』こととし、</p> </p>

また会派テーマの『活力ある明日岡谷市をデザインする』に向けて、調査、研究、研修活動がスムーズに進められるように定期的な意見交換、勉強会、課題共有や意思疎通を図ることができた。

#### 【活動実績】

※会派活動報告書は年度ごとにまとめ、年度当該年度の収支報告書の提出に合わせ議長に提出するものとする。

※議長は、提出された会派活動報告書を収支報告書と同様に公開するものとする。